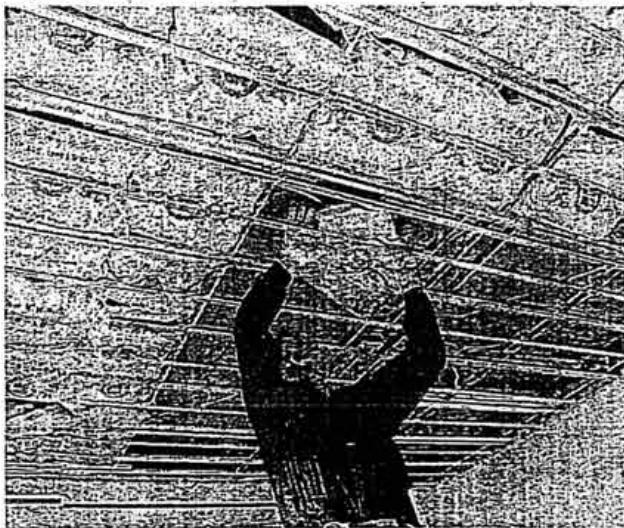


アトピーへの効果探る



調湿木炭「炭八」を住宅の天井に置く作業員=資料

一部の使用者からアトピー性皮膚炎が改善したとの声が寄せられたことから、共同開発した島根大とともに二〇〇三年五月から十カ月間、患者を対象に症状を調べたところ改善傾向がみられたため、十人の患者の協力を得て本格的な実験に踏み切ることにした。

炭八は廃木材を炭化処理した製品で吸湿力が高いのが特徴。住宅の床下や天井などに使われている。

出雲土建と島大

敷患者宅に設ダニなどの発生解析

出雲土建(出雲市神門町、石飛裕司社長)と島根大学は、同社製の調湿木炭「炭八」がアトピー性皮膚炎を改善する可能性があることから、患者宅で住居のカビやダニの発生状況などを二年間にわたり調べる実験を始める。

調湿木炭で実験開始

りデータを分析する医師らの先入観を取り除くため、敷設の有無も知らせないダブルブランク方式で実施。

五人の自宅寝室の床下や天井に炭八を配置し、残り五人の寝室には炭八を密閉したダミーの炭八を敷設する。

同大医学部が一ヶ月に一回、患者を診察し、三ヶ月に一回は患者から採血し検査。同大の総理

工学部と産学連携センターラーが、寝室の湿度や温度を収集。アトピー性皮膚炎の原因となるダニやカビの解析を、日本環境衛生センター(総局・川崎市)と国立医薬品食品衛生研究所(東京都)に委託。両機関がダニやカビの数、種類を調べる。

石飛社長と同大医学部皮膚科の森田栄伸教授は「アトピー性皮膚炎を治療する上でダニやカビへの対策は重要。実験結果に注目している」と話している。